

鳴かぬなら 歩いて見せよう 静岡県

中村慎太郎

静岡県は、横に、長い。

静岡県とはどんなところなのかという問いに対して最も適切な答えが、横に長いということなのではないだろうか。

静岡県といえば……。サッカー王国、富士山、お茶の名産地、ちびまる子ちゃんなどが思いつくが、その次が続かない。そんな中でよく話題に出てくるのが横方向の長さである。

かくいうぼくもその一人で、新幹線こだまに乗っているときにはなかなか静岡県を通過しないのにも驚いていた。いや、辟易としていた。つまり、静岡県を早く通り過ぎたいと思っていたのだ。随分前だが、名古屋から下道を使って東京まで運転したことがある。その時は渋滞もあって静岡県を通過するのにの時間以上かかった（※数字や記号が横向きなのは、もう少し行程が進んだら直しています）。ただ、東西の直線距離は155kmなので、それほど長い距離とはいえない。平均時速80kmならば2時間で通過できる。タクシードライバーの仕事では1回で300kmくらい運転していたことを考えると大した距離ではないと感じる。

さて、静岡のことを書こうと思ったときに「横に長い」というよく聞く主張が頭に引っかかっていた。どうして155km程度が長いと感じたのだろうか。ある日閃いた。

みんな静岡にまったく用事がないし、静岡に魅力も感じていないのではないだろうか。そのせいで静岡を通過するのがつまらなく感じるのではない

いか。静岡出身者には失礼な話で恐縮なのだが、多くの人にとって用事があるのは、東京、横浜、静岡県の東端に位置する熱海、そして名古屋、京都、大阪である。多くの人は熱海から名古屋の間にはあまり用事がないのだ。確かにぼくとしても行ってみたいと思ったのは掛川花鳥園くらいのもので、それ以外は用事がなかった。

「リーグを知るまでは――」。

国内サッカーに興味を持つと、サッカー王国静岡の凄さに気づかされる。「リーグ開幕時から名乗りをあげる清水エスパルス、黄金時代を築いたジュビロ磐田をはじめとして、藤枝MYFC、アスルクラロ沼津も」リーグ入りしていて、「を目指すクラブも次々と現れている。社会人サッカークラブの数と質については、間違いない日本一であろう。

そう言いつつも、静岡県でサッカーを見る機会が実はあまりなく、磐田で二度観戦したきりであった。清水、沼津、藤枝には行ったことがない。ぼくは静岡のことをあまりよくしらない。そして、「リーグファンを10年近くやってきても、自然に興味を持つことはなかった。この書籍の趣旨はサッカーを通じて各都道府県を深く知っていくことだ。では、静岡を知るにはどうしたらいいのか。静岡は、横に、長い。そして、東海道が走っている、昔の日本人はみんな歩いて往来していた。そうだ、静岡とは歩いて横断するべきなのかなのだ」それならばぼくも、徒歩で横断してみようではないか。潤沢な予算はないが、歩くだけならお金はあまりかからない。

そうだ、静岡県を、歩いて、横断してみよう」